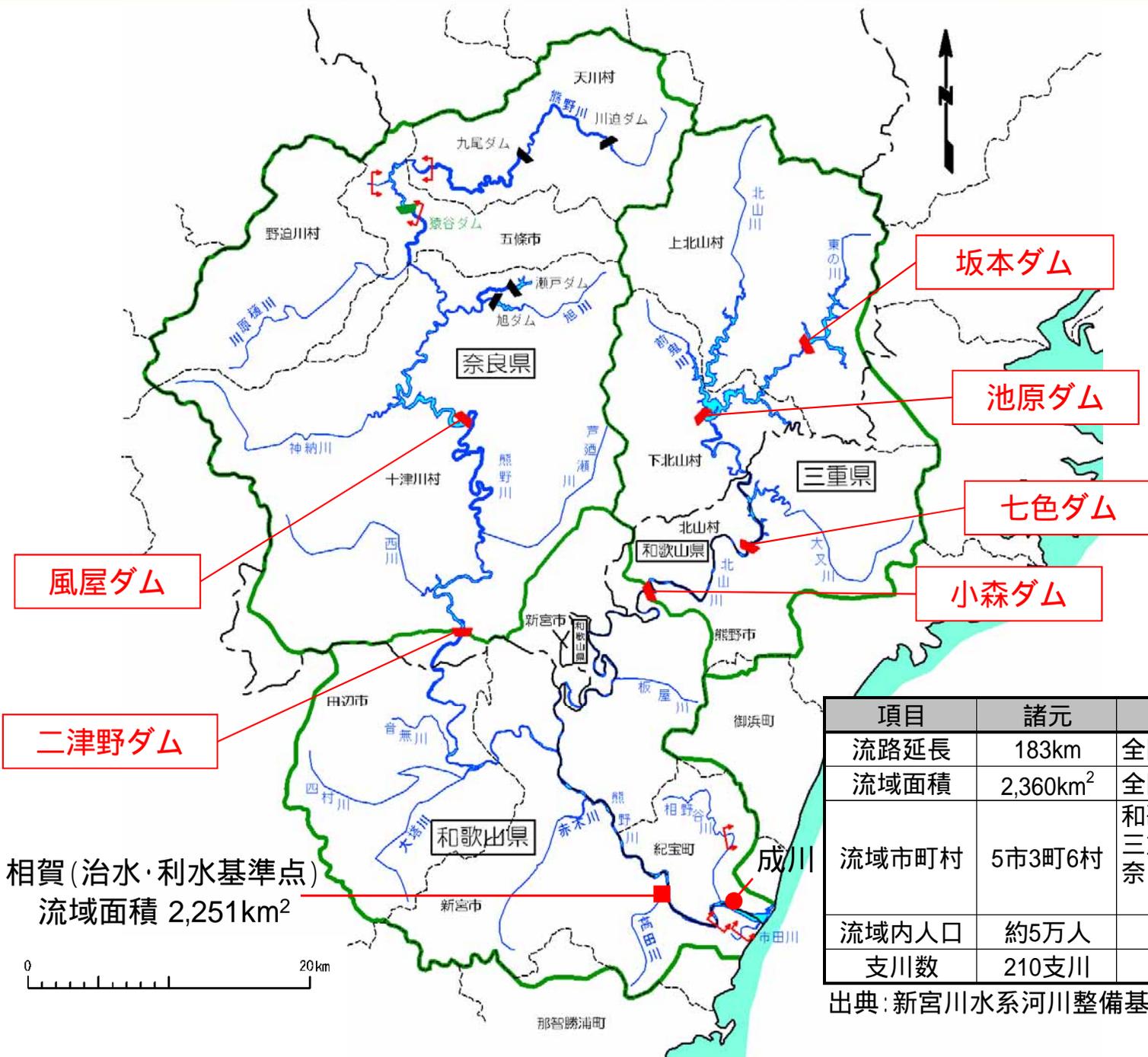


ダム運用および情報伝達の 改善について

平成29年6月
電源開発株式会社

1. 新宮川水系の概要



流域面積

二津野ダム上流域	1,016 (801) km ²
小森ダム上流域	641 (564) km ²
ダム下流域	703 km ²
合計	2,360 (2,068) km ²

()内は猿谷ダム、坂本ダムの流域を含まない流域面積(分水を考慮)。

凡例

- 熊野川流域
- ダム流域
- 基準地点
- 主要地点
- ▬ 電源開発(株) 管理ダム
- ▬ 国土交通省 管理ダム
- ▬ 関西電力(株) 管理ダム
- 県界
- 市町村界
- ↑ 直轄管理区域

相賀(治水・利水基準点)
流域面積 2,251km²

項目	諸元	備考
流路延長	183km	全国14位/109水系
流域面積	2,360km ²	全国26位/109水系
流域市町村	5市3町6村	和歌山県 : 新宮市、田辺市、那智勝浦町、北山村 三重県 : 熊野市、尾鷲市、紀宝町、御浜町 奈良県 : 五條市、十津川村、野迫川村、天川村、上北山村、下北山村
流域内人口	約5万人	
支川数	210支川	

出典:新宮川水系河川整備基本方針

2. 平成29年度出水期の暫定運用

【これまでの経緯】

- 当社は、熊野川の利水者として、池原・風屋ダムにおいて自主的に目安水位を設け空き容量を確保することにより、洪水を軽減するための措置を平成9年より講じてきました。
- 当社は、平成23年台風12号により熊野川流域において甚大な被害が発生したことを重く受けとめ、また、熊野川の河川整備の現状を鑑み、社会的責任の見地から、平成9年に設定した目安水位の低下を図り、更なる洪水被害の軽減に努めることとし、ダム運用の改善策による暫定運用を平成24年度出水期(平成24年6月15日)に開始いたしました。
- 暫定運用の検討は、当社が設置した「ダム操作に関する技術検討会」において、学識者および河川管理者のご意見・ご指導を仰ぎながら実施いたしました。

2. 平成29年度出水期の暫定運用

【平成28年度出水期における暫定運用の検証】

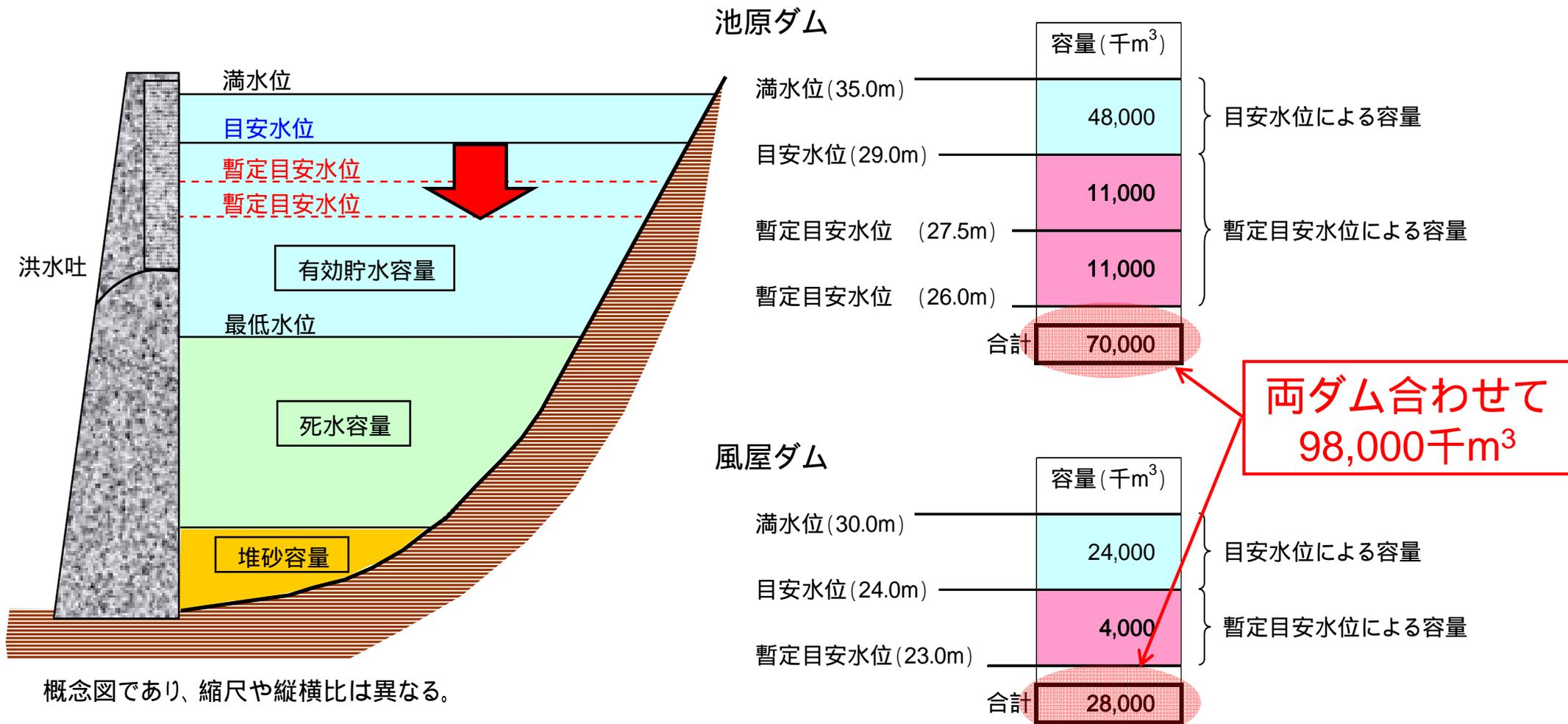
- 平成28年度出水期における暫定運用実績を踏まえ、その効果、課題等を整理し、平成29年度以降の運用のあり方を上記技術検討会にて検証いたしました。
- その結果、以下の事由により、平成29年度出水期においても、**現行の暫定運用を継続することと致します。**
 - 暫定目安水位 は、気象予測技術、ダムの構造上の特性、下流利水者等への影響等を総合的に勘案して、当社が自主的に対応できる限界で設定している。

平成9年に設定した目安水位を平成24年度出水期から更に低下させた水位
 - 平成28年度暫定運用において、水位低下開始基準を見直す事例はなかった。
- 平成29年度出水期における暫定運用実績を踏まえ、引き続き、**次年度以降の運用のあり方を継続して検証していきます。**

2. 平成29年度出水期の暫定運用

ダムの空き容量

- 台風による大規模出水が想定される場合において、池原ダムおよび風屋ダムの貯水位を事前に低下させ、空き容量の確保に努めます。



概念図であり、縮尺や縦横比は異なる。

暫定目安水位: 平成9年に設定した目安水位を平成24年度出水期から更に低下させた水位

2. 平成29年度出水期の暫定運用

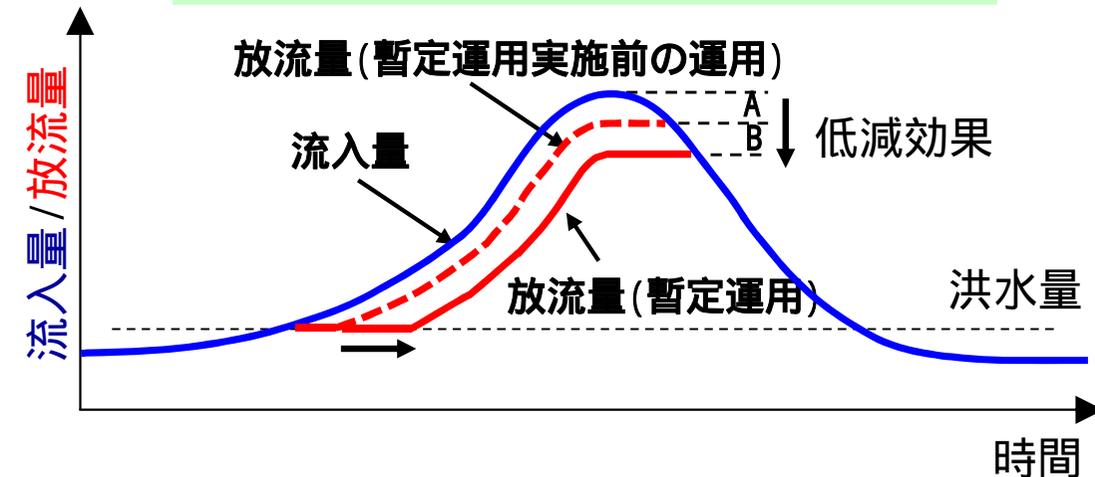
ダム水位の低下

- ダム水位の低下は、台風情報(中心位置、予測進路)や長期(84時間)降雨予測に基づき判断し、概ね出水の2~3日前に開始します。
- したがって、ダム水位低下のための放流は晴天時に開始する場合もあり、下流の観光事業・漁業・親水活動等に影響を及ぼす可能性があります。
- なお、池原ダムは予想される出水規模に応じて2段階でダム水位を低下します。

ダム放流量の低減

- 確保した空き容量を有効に活用し、洪水時のダム放流量の低減を図ります。

放流量低減効果のイメージ(池原ダム)



期待されるダムからの最大放流量の低減効果

	池原ダム	風屋ダム
最大流入量に対する低減効果(A+B)	約5~50% (約20%)	約5~30% (約5%)
暫定運用実施前の運用に対する低減効果(B)	約0~25% (約10%)	約0~15% (0%)

ダムへの流入規模等により低減効果は異なります。

()内の数字は平成23年台風12号の低減効果

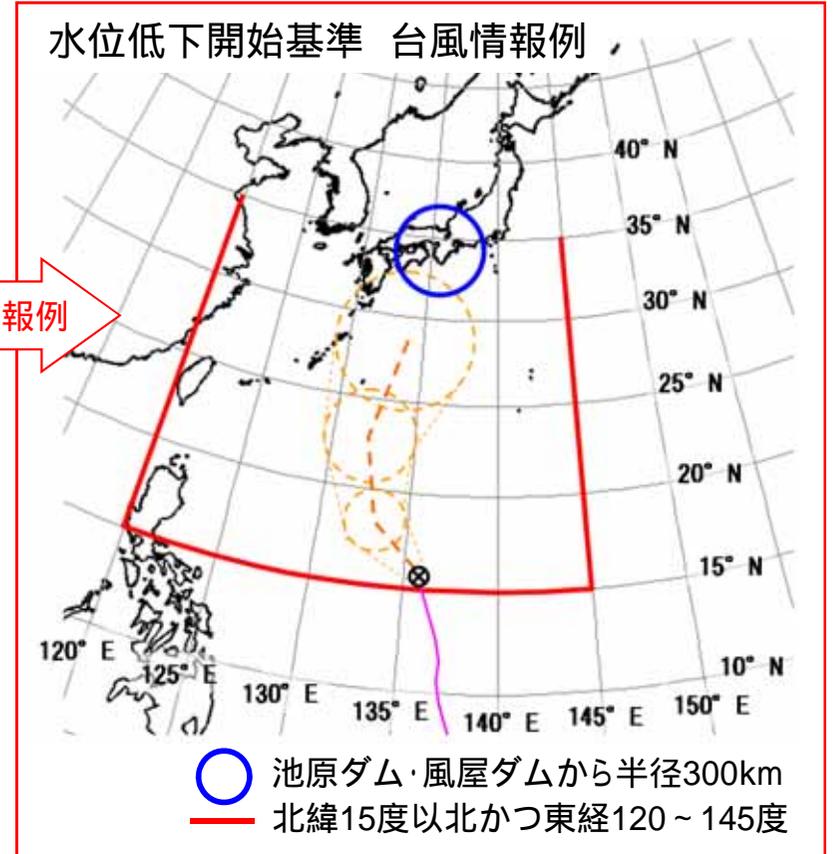
2. 平成29年度出水期の暫定運用

ダム水位低下開始基準

➤ 下表の台風情報および降雨予測の条件に共に該当したときをダム水位低下開始基準とします。

気象庁 発表の情報		基準	水位低下開始基準 (2ダム共通)	水位低下開始基準 (池原ダムに適用)
台風情報	中心位置		北緯15度以北かつ 東経120 ~ 145度	同左
	予測進路		各ダムから300km以内 に接近	
降雨予測	長期降雨 予測値 (84時間)		200mm以上	500mm以上

台風情報は3時間毎、降雨予測は6時間毎に気象庁より配信される最新情報を適用します。



台風情報 凡例

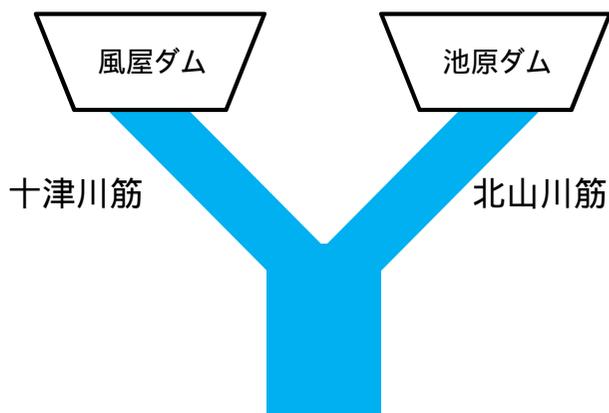
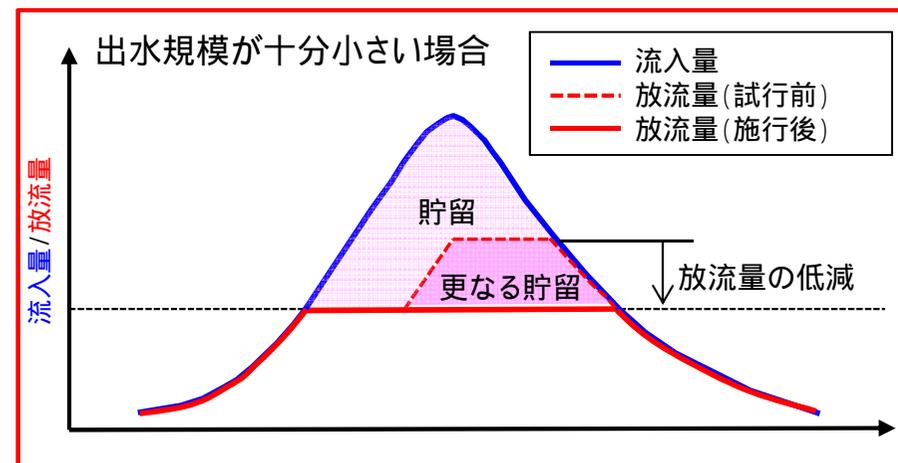
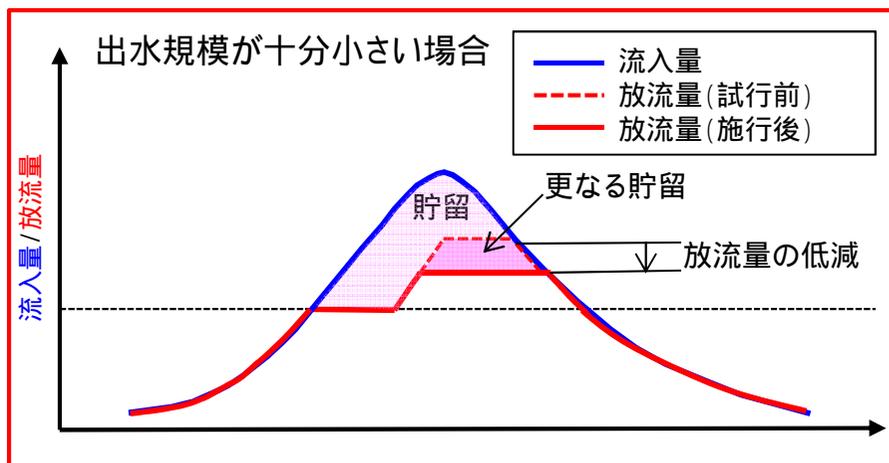
⊗	台風中心位置
- - -	台風予測進路
○	台風予報円
—	台風経路

3. ダム連携、二津野・七色・小森ダム放流量低減の試行

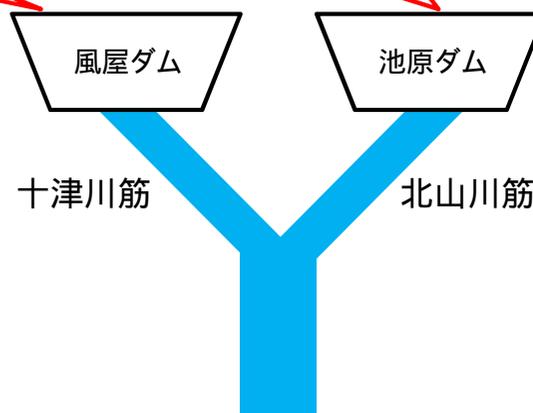
出水規模が十分小さく、降雨・流入量予測から十分な空き容量があると判断できる場合を対象に、各ダムが個別に空き容量を利用して流入を貯留し、ダム放流量を低減することに努めます。結果として、合流点下流の流量低減が図れます。ただし、これらの対応は、降雨・流入予測等に基づき実施するため、常に実施できるわけではありません。

試行の一例【十津川筋ダムと北山川筋ダムの連携のイメージ】

降雨・流入量予測から十分な空き容量があると判断できる場合



合流部下流の
流量低減



4. 降雨・流入量予測に関する検討

■ 目的: 更なる放流量低減 降雨・流入量予測精度の高度化を検討・適用

流入量予測の高度化検討に係る全体工程

項目	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1) 暫定運用の検証見直し	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">検討</div> <div style="flex-grow: 1; border: 1px solid black; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 2px;">暫定運用の適用・検証・見直し</div> </div>							
2) 降雨・流入量予測の高度化 降雨予測の高度化 ・短期降雨予測(1-12時間) LFMの配信 ・中期降雨予測(12-48時間) MSMの配信 MSMの補正検討 ・長期降雨予測(48時間以上) GSMの配信 GSMの補正検討						検討	試行	適用
		評価		MSM導入・配信				
					MSM補正	検討	試行	適用
		評価		GSM導入・配信				
ダム流入量予測高度化 ダム流入量予測の配信 流入量予測の活用						検討	試行	適用
		予測システム開発		試行配信		本格配信		
					流入量予測活用	検討	試行	適用
3) 更なる放流量低減		検討		試行運用				適用
4) 中間報告書		中間報告書				中間報告書		

(LFM : Local Forecast Model, MSM : Meso-Scale Model, GSM : Global Spectral Model)

5. 情報伝達の改善

➤ 当社は、「ダム操作に関する技術検討会」の中間報告以降、河川管理者および関係自治体と協議・調整を図り、情報伝達の改善に取り組んでいます。

➤ 以下の項目については、既に対応が完了しております。

- 新宮川水系各ダム情報(フリーダイヤル)の回線増強
- 情報伝達ルート多重化(無線通信のルール化、衛星電話の設置)
- インターネットによるダム情報の提供(国土交通省が管理・運営するインターネットサイト「川の防災情報」への当社ダムの情報を掲載)
- サイレン吹鳴、放送アナウンスの可聴範囲調査(警告目的を概ね満足)
- 放流に関するパンフレットの配布(平成27年8～9月再配布)

➤ 以下の項目については、引き続き、河川管理者、関係自治体、および当社が連携して協議・検討を実施します。

- ダム放流の通知・通報の改善(平成29年度中に完了予定)
- ダム放流説明看板の更新(平成29年度中に完了予定)
- ダム流入量の予測(継続実施)